

平成27年7月7日11時（日本時間）より、新しい静止気象衛星「ひまわり8号」の運用が開始されました。当センターでは、ひまわり8号の運用開始にあわせて「気象衛星データ配信システム」を整備し、運用を開始しました。

ひまわり8号は、これまでのひまわり7号と比べて観測機能が大幅に強化されています。

ひまわり 8号とひまわり 7号の比較

	ひまわり 8 号	ひまわり 7 号	
観測バンド数	16 バンド	5 バンド	
解像度	0.5～2km	1～4km	バンドにより異なる
観測頻度	2.5 分毎(日本域) 10 分毎(全球)	30 分毎	

本システムは、運用中の「ファイル形式データ配信システム」の機能をベースに、観測機能の強化に伴うデータ量の大幅な増加に対応し、ひまわり8号の観測データを即時に利用者に配信します。

気象衛星データ配信システムで提供するデータ

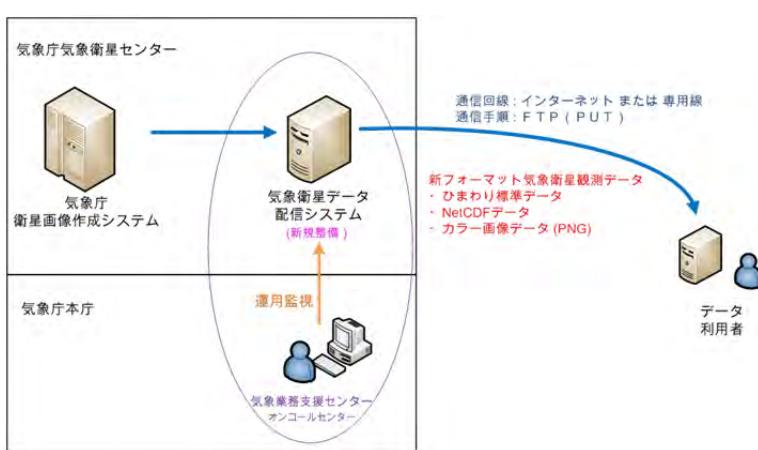
ひまわり標準データ	フルディスク(全球) / 日本域 / 機動観測域 の 3 領域, 各 16 バンド
NetCDF データ	日本域 / 機動観測域 の 2 領域, 各 16 バンド
カラー画像データ (可視, PNG 形式)	フルディスク(全球) / 日本域 / 機動観測域 の 3 領域

これらのデータは、ファイル形式データと同様の FTP ファイル転送 (PUT 方式) で、インターネットまたは専用線を通して各利用者に配信されます。

また本システムは、気象庁気象衛星センター内に設置しており、気象庁本庁内の気象業務支援センター・オンコールセンターで遠隔監視・運用を行なっています。

本システム及び配信データに関する詳細は、当センター配信事業部（TEL:03-3215-2205、URL:
<http://www.jmbsc.or.jp/hp/online/s-online0.html>）までお問い合わせください。

当センターでは、今後もより確実で安定した情報の提供を行うための努力を続けてまいります。



気象衛星データ配信システムのデータ配信、運用イメージ



気象衛星データ配信システムの全景

(配信事業部)